

## 洛和会京都看護学校 学校評価 令和6年度学校関係者評価結果

令和6年度洛和会京都看護学校の学校評価に係る自己評価結果を踏まえ、以下のとおり学校関係者評価を行ったので、ここに評価結果を取りまとめ、提出いたします。

### 1 基礎データ（令和6年度）

基礎データとして示された生徒数、国家試験合格率、就職率の基礎データを概観する。大学・専門学校ともに新入生の定員割れが取りざたされる中で、生徒数は定員を満たしており、特に問題はない。次に国家試験合格率は看護学科・助産学科ともに100%を達成し、学生の努力はもちろんのこと、学校を21時まで開放するなど教職員のサポートあつてのことであり、大いに評価できる。また、就職率については看護学科、助産学科ともに100%を達成された。就職に強い洛和会京都看護学校のイメージをさらに広めていただきたい。

### 2 評価項目

#### （1）教育理念・教育目的について

学校の教育理念・教育目的は、単なるお題目ではなく学校存立の支柱であり基盤である。これを生徒がどれだけ理解し、教職員は様々な機会にどれだけ生徒に伝えきれているかを把握し改善する必要がある。その視点で一昨年からアンケートを実施いただいたところである。6年度のアンケート結果を見ると、教育理念、教育目的ともに、学生は「理解できた」とする割合が昨年度よりも上がり、浸透していることが窺える。しかしながら教員のほうは「周知できる機会の確保が難しかった」との意見があり昨年度よりも下がっている。教員が時間的・精神的に余裕をもって教育理念や教育目的を指導できるよう、体制の整備に努めていただきたい。新校舎への移転を良いきっかけとして、教員・学生ともに改めてしっかりと理解し認識してもらえるよう、次年度に向けてさらなる工夫が望まれる。

#### （2）学校運営について

教職員不足のなか、看護学科・助産学科ともに国家試験合格率100%を達成したことは大いに評価に値する。これを継続するためにも、教職員の業務負担軽減策を含め、さらに体制の整備に努めていただきたい。また、かなりの会議や委員会が設置されているようであるが、会議数、開催回数、参加人数については教職員の過度の負担を招くことのないよう精選と適正化に留意いただきたい。類似の会議をまとめるなども検討されてはいかがだろうか。

#### （3）教育課程・教育活動について

前年同様、アンケート調査でシラバスの有用性、カリキュラムの工夫、学習へのフォローについての学生及び教員の意識を比較されている。シラバスについて、授業内容を理解

しやすく有用であったとの評価は看護学科・助産学科の学生および教員すべてにおいてポイントが下がっており、全体を通して満足がいていないようである。次年度に向けては、今年度の反省をふまえ時間的・精神的余裕をもって取り組み、満足度の高いものに仕上がるよう努めていただきたい。カリキュラムについては、「段階的に学べるよう工夫されていたか」の問いで看護学科の学生の大きくポイントが上がっている。引き続き学生の学習理解が深まるよう工夫を続けていただきたい。

自己評価でも分析されていたが、学習の躓きに対しては教員に聞くよりも級友同士で解決しようとする学生が圧倒的に多く、教員側の支援策に改善の余地が残されている。生徒との日常的な対話により何に躓いているのかを感じ取り、積極的にコミュニケーションをとって関わり、質問や相談をしやすい関係性づくりに努めていただきたい。また実習における教員の指導体制においても、学生が安心して望めるように体制強化に努めていただきたい。教員の見逃しのない観察と迅速な対策、教員相互のさらなる連携を期待したい。

#### **(4) 学習の到達度について**

令和6年度の貴校の看護師国家試験合格率は看護学科・助産学科ともに100%となり、学習の到達度評価としてはこの上ない素晴らしい結果である。夏頃からは21時まで学校を開放したり卒業生から勉強を教えてもらう機会を設けるなど、学習環境の整備とサポート体制を強化されたことが結果に結びつき、その取り組みは称賛に値する。しかしながら21時までの開放は教員の負担も大きかったのではと推察される。引き続き合格率100%を継続することは大いに期待したいが、持続可能なサポート体制も両立できるよう、方策の検討を進めていただきたい。

#### **(5) 奨学金など生徒への支援状況について**

洛和会奨学金は多くの学生が利用しているが、令和6年度からは保証業者（機関保証）が導入され、さらに利用されやすいように工夫されている。今後も積極的に案内し、洛和会ヘルスケアシステムの看護師確保対策の一助となれるようすすめていただきたい。

また、令和5年度より「大学等における高等教育の修学支援新制度」対象校の認定を受け、該当生徒は32名と前年度より倍増しているとのこと。令和7年度からは、メディアでも取り上げられているように多子世帯への支援拡充に伴い、さらに利用者が増加することが予想される。入学生への周知徹底に、より一層努めていただきたい。

また、社会人には「社会人生活応援貸付金」「洛和会就学応援貸付金」の創設に加えて、すでに国家資格を取得されている受験生には「ダブルライセンス優待制度」として実務経験年数に応じた実習費の減免がなされるなど、社会人入学生の獲得に向けての方策も整えられてきており、国の「専門実践校育訓練給付制度」と合わせ、貴校が進めるリカレント・リスキリングの先駆的な取り組みを評価したい。

#### **(6) 教育資材・教育環境の整備について**

授業および演習において必要な設備や物品については、毎年、補助金等を活用しつつ充実を図られてきている。今年度は看護学科ではハイブリッドシミュレーターと連動して看護の行動履歴を保存し振り返ることができる IT 管理システムの導入、助産学科では未熟児のモデルや産褥期早期の子宮触診シミュレーター等の演習資材を整備し、より実践に備えた教育が実施されていることを評価したい。

次年度は新校舎へ移転し、新設される図書室も含めてさらに充実した実習環境と学習環境が整備され、よりいっそう質の高い教育が提供されるものと大いに期待している。

#### (7) 入学志願者増の取組について

少子化の影響や大学志望者の増加もあり、定員割れの専門学校が年々増えてきているなか、貴校では一度も定員割れを起こしていない点は評価したい。

従来の「厚生学校」が若い人には伝わりにくく、「看護」の検索でヒットしない等の弊害も見られたことを改善すべく、令和 6 年度からは「洛和会京都看護学校」へと名称が変更されたことで、看護専門学校として学校名の浸透を図ってこられたことであろう。

また、オープンキャンパスについては前年度より開始時期を 1 カ月早める、参加者数が多く見込まれる 6 月・8 月は午前と午後の 2 回開催する、遠方の方向けにオンライン開催を行うなど、参加者増のための工夫がみられた。

新校舎への移転という大きな転換期を迎えるにあたり、オープンキャンパス内容のさらなる充実、および受験しやすい制度や方法についても引き続き検討していただきたい。貴校の魅力を最大限に発信して他校との差別化を図り、入学志願者数の増加を期待する。

#### (8) 特別活動について

新型コロナウイルス感染症の影響で見送られていた卒業前の研修旅行は令和 5 年度から復活し、令和 6 年度も引き続き実施され、ほとんどの学生が参加された。

学生が主体となって運営する「水脈祭」は、令和 6 年度は洛和会メディカルフェスティバルの一部として位置づけられ、規模を拡大して実施され盛況であったとのこと。

また、看護への誓い（キャンドルセレモニー）も東部文化会館で催され、保護者や高校関係者からも観覧され、学生のモチベーション向上にもつながっていると考える。

次年度以降も学生の主体性を育む活動を多く実践していただきたい。

#### (9) 地域・社会への貢献、他機関との連携状況について

洛和会京都看護学校は、地域医療の中核を担う洛和会ヘルスケアシステムの一つとして地域とのかかわりを重視している。令和 6 年度は従来より行ってきた高校への出前授業のほか、助産学科の学生が地域の児童館と協同して中高生世代と赤ちゃんとの交流活動を開催するなど、地域貢献活動も年々向上しており評価できる。地域とのつながりを通じて教員や学生にも良い影響を与えていると考えられるため今後も継続していただきたい。

また、山科警察署と連携して痴漢撲滅活動を行ったり、NPO 法人の取り組むフードド

ライブに協力するなど、ボランティア活動も積極的に行っている。今後も引き続き、学校および学生の社会貢献をさらに根付かせ、地域の中の看護学校として住民に親しまれ、社会的役割を担えるよう、地域の諸機関と連携・協調・協働して「洛和会京都看護学校ならでは」との信頼と評価を獲得していただきたい。

### 3 評点

| 項目         | 評点   |
|------------|------|
| ①教育理念・目的   | 4    |
| ②学校運営      | 3.5  |
| ③教育課程・活動   | 3.25 |
| ④学習到達度     | 4    |
| ⑤生徒支援      | 4.25 |
| ⑥教育資材・環境   | 4.25 |
| ⑦募集・応募     | 3.75 |
| ⑧特別活動      | 3.5  |
| ⑨地域貢献・機関連携 | 3.75 |

以上、「洛和会京都看護学校 学校評価実施要綱」に基づき令和6年度の自己評価結果を学校関係者により点検・評価を行った。

教育課程・教育活動においては課題があるとして昨年度より低い評価とした。

学習到達度は看護学科・助産学科ともに国家試験合格率 100%を達成したことから加点した。また、最新の設備や教材等を導入して学習環境を整備しようとする姿勢を評価し、教育資材・環境の面で加点した。

以上により、今年度の評点平均値は 3.81 ポイントとなり、昨年度より 0.31 ポイント下回る結果となったが、次年度は新校舎への移転を良いきっかけとして、引き続き、看護師および助産師の国家試験合格率 100%の継続を目指して、より一層学習支援を充実させ、新しい学校が更なる飛躍へとつながることを期待したい。

本評価結果を共有いただき、PDCA サイクルによる学校改善に役立てていただきたい。

(参考)

学校関係者評価委員会

学校法人洛和学園評議員 1 名、同窓会関係者 1 名、実習先関係者 2 名 計 4 名